1　指定物件の表示および所有者

指定区分	有形文化財
種　　別	建造物
指定名称及び員数	曲渕水源地水道施設　附　平尾浄水場配水池点検用通路入口建物 曲渕堰堤　1基 平尾浄水場配水池点検用通路入口建物　1棟
所 在 地	曲渕堰堤　福岡市早良区大字曲渕 平尾浄水場配水池点検用通路入口建物　福岡市中央区南公園1－1
所 有 者	福岡市

2　概要

(1)　曲渕堰堤

1916(大正5)年に着工し1923(大正12)年に竣工した、福岡市最初の近代ダムである。当時約12万人の市民に1日あたり15,000㎥の水を送るため、旧早良町曲渕地区に八丁川と飯場川を堰き止めて築造された上水専用ダムとして690万円をかけて建設された。当初の規模は、堰堤高31.2m、堤頂長さ142.7m、有効貯水量142万tであった。

1931(昭和6)年には早くも拡張工事が行われ、1934(昭和9)年に竣工した。工事内容は堤頂部を 6.1m嵩上げし、上流側には全国で初めてのセメントガンによる吹き付け漏水防止工事を行った。この結果堰堤高37.3mとなり、有効貯水量は264万tとほぼ倍増した。これにより計画給水人口は25万人となった。

その後も1963(昭和38)～1964(昭和39)の漏水防止工事等数回の補修・改良工事を行ってきたが、堤体監査廊内への漏水や堤体下流面への浸潤が見られるようになったため、1985(昭和60)より堤体や基礎岩盤の性状、および漏水機構の調査が実施された。福岡市においては現在３河川、８ダム、福岡地区水道企業団（筑後川）から上水を取水し、全体の施設能力は曲渕ダム建築当初の50倍となっているが、依然として福岡市の水源として貴重なダムであるとともに、将来にわたって貯水池の機能を維持していく必要性から、現行のダム基準に適合するよう堤体の全面的な改良工事が必要とされた。

1989(平成元)年～1993(平成 5)年には堤体の安全と漏水防止を図るため上流面にコンクリートを増厚し、約350,000㎥の堆積土砂を除去した。この工事においても、景観的な美しさや歴史性を考慮して堤体外面の石積みは保全されている。現在の規模は総貯水量 260万t、堰堤高45.0m、堤頂長160.6mである。

(2)　平尾浄水場配水池点検用通路入口建物

平尾浄水場は福岡市最初の浄水場で、1923(大正12)年に給水を開始した。曲渕ダムから３ヶ所の接合井を経て送られた水は、平尾浄水場の貯水池に貯められ、市街に給水された。曲渕ダムの拡張工事が成った1934(昭和9)年第一回拡張工事を実施した。その後、1940(昭和15)年・1953(昭和28)年にも拡張工事が行われている。

しかし、老朽化と施設規模拡大のため 1976 年(昭和 51)夫婦石浄水場にその役割を譲り廃止、6 月 2 日には止水式が執り行われた。9 月には浄水場の撤去工事が始まり、1980(昭和 55)年福岡市植物園として開園した。

現在植物園内に残されている建物は、平尾浄水場の配水池点検用通路の入り口に利用されていたものである。1978(昭和 53)年に現在地に移設、水道局から福岡市植物園に移管されたもので、創設当時は配水池に接して設けられていた。現在は、水道記念モニュメントとして、保存されている。

3　法量

(1)　曲渕堰堤　　堤高 45.0m、堤頂長 160.6m、堤体積 82,200 ㎥

(2)　平尾浄水場配水池点検用通路入口建物　正面 3.0m、側面 2.8m、高差 5.1m

4　構造・形態等

(1)　曲渕堰堤　　重力式コンクリートダム
　　粗石混じりコンクリート、表面　御影石布積

(2)　平尾浄水場配水池点検用通路入口建物
　　外面　下半　御影石積　　上半　煉瓦積
　　内面　下半　洗出　　上半　モルタル仕上げ

5　指定理由

(1)　曲渕堰堤は本市で初めての上水用ダムであり、全国に残る上水用重力式コンクリートダムの中で９番目に古く、規模は建設時・改良時ともに最大級を誇っていた。

(2)　堰堤の前面は現在公園として整備され、市民の憩いの場となっており、御影石に覆われた重厚な堤体は周辺の木々とあいまって、良好な景観を構成している。

(3)　平尾浄水場は、曲渕堰堤で取水した水を福岡・博多の市街に給水する役割を担ったもので、1976 年に廃止されるまで、都市生活を支え続けた施設である。現在福岡市植物園として市民の憩いの場となり、浄水場当時の面影は失われているが、その中にあって、配水池点検用入口建物は、記念モニュメントとして往時を語る証人となっている。

(4)　福岡市の上水道計画は、市制が施行された明治 22 年に調査が開始され、明治 40 年に曲渕の地が選定された。同水道施設は紆余曲折を経て大正 5 年に着工、同 12 年に竣工した。着工にいたる明治後半から大正初めまでは上水道開設の模索期であり、竣工後は現在にいたるまで福岡市の都市化・拡大とともに拡張・改良を繰り返してきた経緯を持つ。このように曲渕水源地水道施設は、福岡市の近代化の過程を示す証として、資料的な価値がきわめて高いといえる。

以上の点から、曲渕水源地水道施設は福岡市に残る近代化遺産として貴重であり、そして福岡市の都市発展とともにあり続ける現役の施設として重要である点から、福岡市指定有形文化財に指定するものである。

曲渕水源地堰堤とダム公園

花崗岩練積と改良工事痕跡

堤頂と遊歩道

ダム湖・取水塔・洪水吐

堰堤入り口

堰堤入り口扁額「貯水池」

大正12年の堰堤頂におかれていた
欄干の石柱

昭和9年改良工事竣工記念碑

福岡市植物園内の水道記念モニュメント

平尾浄水場配水池点検用入口建物

建物の四方に掲げられた扁額「碧澗聲」・「浄而豊」、もう一面は「讃水徳」

平尾浄水場記念碑、背後は昭和9年の記念植樹碑

水道記念建造物説明版

平尾浄水場の門跡

曲渕水源地からの導水路跡